

短い秋に
小嶋祥三

今年は天候不順だ。エルニーニョ、ラニーニャの影響だろうか。奇妙な動きをするタチの悪い台風がいたり、東京では秋のはずが無闇に暑かったり、冬はまだ先のはずがとても寒かったり。おまけに今朝（11月24日）は雪まで降った。昭和37年11月22日以来、54年ぶりの11月の雪だそうだ。積もれば観測史上初とのこと。昭和37年が明けると「三八豪雪」があった。今回はそんなことにならないといいのだが。



2016.11.24 の雪

青梅街道のイチョウ並木（2016.11.22）

今、青梅街道のイチョウ並木が黄葉し始めている。今年はいつもの年より少し早いように思う。それにしても、黄葉に関して、樹によって早い、遅いが著しい。早く黄葉し、葉が散り始めている樹の隣は、まだ青々している。ただ、春の芽吹きは黄葉が早い樹ほど早いようだ。芽吹き、落葉の時期は異なっている、サイクルの長さは樹によって変わらないのかもしれない。テレビ中継で観た神宮外苑のイチョウ並木はすべて黄葉しており、舗道は落葉でいっぱいだった。早めの黄葉がそろそろように、樹を選んで植えたのかしら。

日本の良いところは四季があること、という意見があるようだ。しかし、適当な緯度の地域には四季があるだろう。アメリカの首都近郊で経験したことだが、春が短く、冬から直ぐに夏になる印象だった。今年の東京は、例年になく、秋が短かった（今年はウラナミシジミをみる機会がなかった）。それ故、日本の良いところは、四季のそれぞれが長いことなのかもしれない。季節ごとに、変化する自然やそれに合わせた人々の営みを楽しむことができるのだろう。